

えんちょう日記 第13回
「季節を感じて楽しんで」

令和8年 2月3日

暦のうえでは春ですが、まだまだ寒い日が続いています。子どもたちは、ひんやりとした空気を肌で感じたり吐く息の白さを楽しんだり、季節を感じながら過ごしています。

氷点下になったある日、ビオトープには氷が張り、畑には霜柱ができました。「うわ〜こおりができてる!」「みんな〜見てみて」と発見と喜びの瞬間。子どもたちは、自然からの素敵な贈り物に目をキラキラと輝かせていました。実際に氷に触れ、冷たさや透き通る色、氷の厚さなど楽しみながら観察をしています。氷を1つひとつ大切に扱いながら容器に集めていきます。少しずつ溶けていく様子に興味津々でした。

自然とのかかわりの中で、季節の変化や自然の不思議を体験することはとても素敵なことです。日々、子どもたちが目をむけている先には何が見えているのか、そこでどんなことに興味をもっているのか、私たちも共に感じあい楽しんでいくことを大切にしていきたいです。これからも豊かな体験ができる環境づくりに努めてまいります。

園庭の樹木には小さな新芽が見られるようになりました。ミモザにはたくさんの蕾が付き、開花が待ち遠しいです。園に来られた際は、是非園庭の様子もご覧ください。

ビオトープが凍っている!!



「冷たい〜」
「ばさって割れるね〜」



別の日…子どもが降園したあとの園庭には
ビオトープの周りにたくさんの容器が並べられていました。



ビオトープで氷ができた体験から、この近くなら同じように氷が作れる!と、先生と子どもたちで準備をしたようです。

いろいろな形の容器、色水も入っていますね。わくわくしながら並べている姿が目につくことができました。



ミモザに
小さな蕾がたくさんつきました



春の
芽吹き

築山に植栽された小さな苗木。少しずつ成長しています。
「この木はなんていう名前かな？」



【冬至の日～ゆず湯～】

冬至の日、お湯をはった中にゆずを浮かべ、“ゆず湯”を体験しました。
今日も寒いね～と話をしていると「またあったかいのしたらいいね～」と。あの日、ゆず湯に手をつけたことが思い出されているようでした。行事に親しむことで四季の移ろいを感じる体験につながるのだと嬉しく思いました。



どっちが大きい？



みかんのお風呂
あったかくていい気持ち



なんかいい匂いがするね～